



リングリング
プロジェクトを
訪ねて⑭

「社会福祉法人 日本点字図書館」

視覚障がいのある方々の「自由な読書」の環境づくりを目指す

映画やテレビ、インターネットによる動画配信など、私たちの身の回りには「見る」娯楽があふれている。しかし、視覚に障がいを持つ人々にとってはそれらを自由に楽しむことは難しい。それだけに「読書」によって得られる楽しみは大きいのだという。

そうした人々に、書籍や雑誌などに触れ、情報を得る喜びを提供しているのが「社会福祉法人 日本点字図書館」である。その歴史は古く、1940年11月、自らも視覚障がいのある本間一夫氏が蔵書700冊を持って日本盲人図書館を創立したのがはじまり。創立70年を超える現在は、点字図書と録音図書、合わせて5万点近くの蔵書を有する日本最大の点字図書館として、日本全国はもとより海外在住の視覚障がい者も対象に、点字図書や録音図書の製作・貸し出しを実施。さらに、書誌情報提供などのレファレンスサービスや

中途視覚障がい者のための点字教室をはじめ、さまざまな図書情報提供サービスを行っている。

それらのなかで今回とくに注目したいのは、1999年8月よりサービスを開始し、利用者も年々増加傾向にあるという「デージー（デジタル録音）図書」だ。これは、世界基準で認められている音声圧縮方式を使った、カセットテープに変わる「声の図書」。1枚のCDに50時間ほどの音声データが収録可能で、利用者は、パソコンや専用の再生機で聴くことができる。

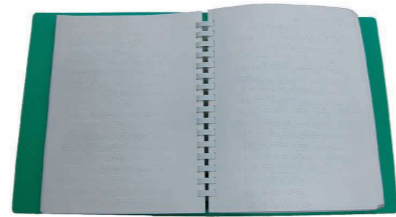
社会福祉法人 日本点字図書館 総務部 庶務課の石出恵さんに、デージー図書の状況についてうかがった。「今春より、カセットテープを廃止し、すべての録音図書をデージー図書へと移行していきます。その動きに先駆け、昨年度の4月からは、『ってんデージーマガジン』という月刊



←館内のワンフロアには録音図書を製作するスタジオがずらり。1冊の蔵書は、通常、朗読から録音までの作業をひとりのボランティアが担当する。

CD雑誌を発行しています。現在は毎月6500部ほどを全国に郵送していますが、おかげさまで希望者は日に日に増えている状況です。『ってんデージーマガジン』には、お料理のレシピなど生活に役立つ情報を収録した「ホームライフ」や鍼灸の

が収録されていますので、これまで興味がなかったジャンルも聴くようになったという声もいただいています。カセットテープの頃は、貸し出し、返却のやりとりなどが生じていたが、このCD雑誌は配布。発行にかかる手間と時間、費用の軽減が実現した。また、これまで一部抜粋だった雑誌を全文掲載するなど、内容も格段に充実。



愛好者も多い「指で読む」点字図書。数か月から1年ほどをかけ、専門知識を持つボランティアによる点訳～読み合わせ校正～製本と多くの行程を経てつくられる。点字はすべてかなでの表記となるため、辞書などは、実に100冊以上のボリュームになるものもある。



パソコンに取り込んだCDのデータをダウンロードして利用できる小型プレイヤーや取り外し可能なカバーをつけることで簡易に操作できるなどの工夫がされたものなど、さまざまなタイプがそろったデージー図書の専用再生機。

「視覚障がい者の方々にとっても、頭出しやしおりづけなど、デジタルならではの機能によって、聴く便利が増しています。また、これまでは前号の返却がないと次号をお貸し出しできなかったのですが、CD雑誌なら手元にずっと残せ、ご自分のペー

スで聴いていただけるのも良いことだと思えます。ただ、点字図書館の利用者の平均は60歳をこえており、パソコンや専用機器の使い方を覚えることに抵抗を覚える方もいらっしゃいます。そこで、現在、カセットテープのみを使っている一部の方

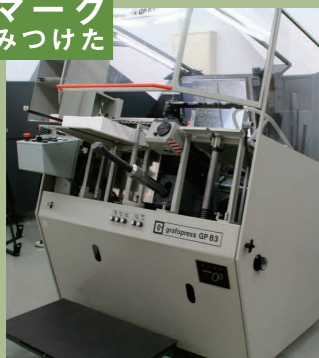
に、機器の貸し出しや使い方のアドバイスなども行っています。日本点字図書館では、昨年度だけでも利用登録者数が1万3159名にのぼり、1年間に1万748タイトル・4万4316冊の点字図書、16万1941タイトル・33万2542巻の録音図書の貸し出しが行われた。

現在、職員58名、パートタイマー66名、そしてボランティア500名近くのスタッフが、それぞれの能力を生かし、日々一丸となって視覚障がい者の「娯楽」と「情報収集」をサポートし続けている。新しいことも取り入れながら真摯に取り組むその姿を、今後も応援していきたい。

(文・長谷川英子)

競輪マークつけた

【福】東京ヘレン・ケラー協会



東京ヘレン・ケラー協会は、中途視覚障がい者が鍼灸マッサージの国家資格を取得するための養成施設ヘレン・ケラー学院、情報提供施設としての点字出版所・点字図書館を運営しています。写真は、JKAの競輪公益資金により購入した平板点字印刷機。この印刷機を導入したことにより、大量印刷や活字を併記した点字印刷を短時間で印刷することが可能になり視覚障がい者への情報提供がスムーズにしました。